

対馬砲台 あるき放題

全島に
31ヶ所もの
砲台が
あるんだよ！

～対馬要塞まるわかりガイドブック～

28cm榴弾砲の
砲座やー！

姫神山砲台

一般社団法人 対馬観光物産協会

まえがき

対馬（つしま）がどこにあるのか知らない方はたくさんいると思います。

事実、この私も結婚するまえはその一人でした。ひょんなことから観光ガイドを養成するという仕事を始め、対馬が歴史的・軍事的にとっても重要な島であることを知り、いつの間にか気がつくと思自身が養成されていました。

最初は一般観光地の紹介のはずが…白嶽（しらたけ）登山（初めて登った時は死ぬかと思った）、次に金田城（かなたのき）トレッキング（対馬にこんなところがあったんだあ!）、そこで目にした砲台跡!こんな場所が対馬全島に31カ所もあると知り、興味半分で調べ始め、歩き回るうちに、いつしか机の上は「日露戦争」「日本の要塞」「対馬要塞重砲兵隊史」等々とても女性の机とは思えぬありさま。決して戦争マニアではありません!誤解のないように…。調べて行くうちにこうなってしまったのです…。

ですが、おかげでおもしろいことをたくさん発見し、少々膝を痛めましたが、いい運動になり森林浴もでき、良いストレス解消ができました!（多少ダイエット効果も?）

今まで「対馬は何もない所」と思っていたのが「対馬にはこんなにすごい所があるんだよ!!」と一人でも多くの方に伝えたいと思うようになりました。このガイドブックを見て「一度対馬に行ってみたい!」と思ってくださればなによりです。車で簡単に行ける場所のほか、ちょっとしたトレッキングルートや、冒険したい方向け（膝を痛める覚悟が必要）の場所まで、これからご紹介していきますので最後までご覧ください。

対馬要塞探検部 部員S



今では写真を見るだけで「〇〇砲台!」とわかるほどに…

目次

- ❶ 砲台探索のための準備(服装・装備等) 4
- ❷ 対馬要塞化の経緯 5
- ❸ 対馬全島砲台マップ(全31カ所)・砲台一覧表 6
- ❹ 上見坂堡壘 かみざかほうらい 8
- ❺ 姫神山砲台(折瀬鼻砲台) ひめかみやまほうだい おりせばなほうだい 10
- ❻ 城山砲台(城山付属堡壘) じょうやまほうだい じょうやまふぞくほうらい 13
- ❼ 尾崎砲台群(郷山・多功崎・慳岳) おさきほうだいぐん ごうやま たこうざき かしたけ 16
- ❽ その他の砲台①(芋崎・大平・大石浦・温江) いもざき おおひら おおいしうら めくえ 19
- ❾ その他の砲台②(四十八谷・大山・大崎山 他) しじゅうやたに おやま おおさきやま 23
- ❿ その他の日露戦争関連地 27
- ⓫ (番外編)死ぬかと思った砲台! 29
- おまけ こんな思いしました瞬間ショット!! 31

対馬要塞探検部の面々



部長(親分)
小松さん

部員N 部員A 部員S

顧問
小島さん

1 砲台探索のための準備

装備 チェックリスト

ウェア

- 防寒着/レインウェア
- 着替え
- 帽子/バンダナ
- 手袋
- トレッキングシューズ

行動用品

- ヘッドランプ
- 地図/コンパス/GPS
- 雨具/ザックカバー
- 携帯電話/時計
- 水筒(夏は1ℓ)
- 非常食
- 筆記用具

小物・その他

- ロール紙(水溶性)
- タオル
- 救急セット
- テーピングテープ
- 健康保険証
- ライター/新聞紙
- ロープ(10~30m)
- 笛/虫よけスプレー
- サバイバルシート
- ビニール袋
- 緊急時連絡先メモ

ゴミは必ず持ち帰り
ましょう!!

帽子

汗をかくと濡れて
乾きにくい綿の
下着は避ける

記録・連絡用の
カメラ・携帯

両手が見えるように
リュックサック

スニーカーは長時間の歩
行不向き。トレッキング
シューズが良い。

ジーンズは濡れる
と動きにくい

暑さ寒さ対策は必須です。万が一に
備え、着替えの準備をしましょう。

砲台の多くは人や車がなかなか行かない山の中にあります。夏場は暑さ・雑草・マムシ・スズメバチ等々、探索するのは大変で危険も増します。できれば11月~5月頃までがベスト!! 初めて行く方は特に注意が必要です。イノシシと遭遇することもありますので、一人では行かないようにお願いします。

出かける前には必ず「どこに行くか、誰と行くか、何時に戻るか」を家族や宿泊先に連絡しておき、緊急連絡先を書いたメモも忘れず持って行きましょう。旅行に来る時は事前に旅行保険に加入されることをおすすめいたします。

緊急時連絡先

- ◆ 対馬消防署 119
- ◆ 対馬警察署 110
- ◆ 対馬市役所 0920-53-6111
- ◆ (一社)対馬観光物産協会
0920-52-1566
- ◆ 長崎県対馬病院
0920-54-7111

2 対馬要塞化の経緯



■ 白村江の戦いと金田城

金田城（かなたのき）は、朝鮮半島西岸の白村江で唐・新羅の連合軍に大敗した倭国軍（日本）が、唐・新羅の侵略に備えて西暦667年に築いた山城。石で築いた城壁が残る天然の要害で、対馬要塞の起源といえます。明治期には城山砲台・城山付属堡壘が築かれました。

■ 1861年対馬事件

1861年、東アジア進出をもくろむロシアが浅茅湾に目をつけ、芋崎を半年間にわたり占拠しました。イギリスの干渉により退去しましたが、大船越の関所を無理やり通過しようとしたロシア兵により島民2人が犠牲になるという悲しい事件が起きました。「義烈」の碑の揮毫は乃木希典。



■ 万関開削・日露戦争

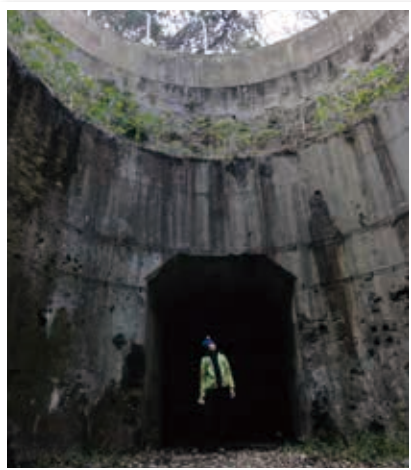
日露戦争前の1901年、海軍要港部のある浅茅湾と対馬海峡東水道をつなぎ、駆逐艦・水雷艇などの小型の軍艦を出撃させるため、万関瀬戸が開削されました。現在、この人工の運河の上には、三代目となる赤い鉄橋・万関橋が架けられています。

■ 昭和の巨砲・豊砲台

日露戦争の勝利により、港湾防備の砲台の役割は終わり、海峡防備のため対馬の南北に豊砲台と竜ノ崎砲台が構築されました。豊砲台には、巡洋戦艦「赤城」のものと同口径45cmカノン砲（射程距離30キロ）が転用されました。

■ 国境の島は今…

対馬は韓国人観光客が多く訪れる国際交流の盛んな島ですが、陸海空の自衛隊施設（航空自衛隊レーダー基地、陸上自衛隊対馬駐屯地、海上自衛隊対馬防備隊）のほか、海上保安部もあり、朝鮮海峡・対馬海峡防衛を担う国防の最前線の島でもあります。



対馬の砲台一覧表

No	建設時期	名称	所在地	起工～竣工 年/月	アクセス	雰囲気・ 展望	備考
1	第一期 日清戦争前	大平砲台(底部)	美津島町屋ヶ浦	M20/4～M21/10	◎	△	
2		芋崎砲台	美津島町屋ヶ浦	M20/4～M21/10	△	△	悪路・要ガイド
3		大石浦砲台	豊玉町深理	M20/9～M21/10	△	△	悪路・要ガイド
4		温江砲台	豊玉町貝削	M20/4～M21/8	△	△	悪路・要ガイド
5	第二期 日露戦争時	四十八谷砲台	美津島町島山	M31/8～M33/3	△	◎	要カヤック・要ガイド
6		大平砲台(高部)	美津島町屋ヶ浦	M31/10～M34/10	△	◎	悪路・要ガイド
7		城山砲台	美津島町黒瀬	M33/4～M34/11	○	◎	
8		城山付属堡壘	美津島町黒瀬	M33/4～M34/11	△	◎	悪路・要ガイド
9		上見坂堡壘	厳原町北里	M34/8～M35/11	◎	◎	
10		根緒(嵐山)第一砲台(堡壘)	美津島町根緒	M34/8～M36/3	○	○	根緒側からのみ 立入可能
11		根緒(嵐山)第二砲台	美津島町根緒	M34/8～M36/3	○	○	
12		根緒(鶴岡)第三砲台	美津島町根緒	M34/8～M36/3	○	○	
13		姫神山砲台	美津島町緒方	M33/2～M34/11	○	◎	
14		折瀬鼻砲台	美津島町緒方	M33/12～M35/4	△	△	悪路・要ガイド
15		大山砲台	美津島町大山	不詳～M36	○	△	幻の砲台
16		郷山砲台	美津島町尾崎	M37/8～M38/10	○	○	要ガイド
17		多功崎砲台	美津島町尾崎	M38/2～M39/5	○	○	要ガイド
18		櫻岳砲台	美津島町尾崎	M37/9～M39/2	○	○	要ガイド
19	第三期 太平洋戦争時	竜ノ崎第一砲台	厳原町安神	T13/9～S4/3			立入禁止
20		竜ノ崎第二砲台	厳原町安神	S8/8～S11/3	○	△	懐中電灯必須
21		豊砲台	上対馬町豊	S4/5～S9/3	◎	○	
22		棹崎砲台	上県町佐護	S11/7～S13/3	○	○	景観はよいが、公園化され、砲台の面影は感じにくい
23		豆酸崎砲台	厳原町豆酸	S11/11～S14/1	○	△	
24		海栗島砲台	上対馬町鱒浦	S9/6～S10/10			立入禁止
25		郷崎砲台	美津島町尾崎	S9/7～S11/12			
26		大崎山砲台	厳原町尾浦	S9/9～S11/8	○	×	悪路・要ガイド
27		西泊砲台	上対馬町富ヶ浦	S12/6～S13/10	△	○	悪路・要ガイド
28		竹崎砲台	美津島町鴨居瀬	S12/5～S13/9	△	△	悪路・要ガイド
29		臼崎砲台	上対馬町五根緒		△	×	荒れ放題
30	小松崎砲台	豊玉町廻		△	△	悪路・要ガイド	
31	折瀬鼻砲台	美津島町緒方		△	△	悪路・要ガイド	

*陸軍築城本部編「現代本邦築城史」参照

- ◎ … レンタカーまたはタクシー利用、のち砲台まで徒歩10分程度。
- … レンタカーまたはタクシー利用、のち砲台まで徒歩で1時間前後。
- △ … レンタカーまたはタクシー利用。ガイドの道案内が必要。砲台までは悪路。
- × … 悪路のためアクセス不可/立入禁止。

アクセスはレンタカーかタクシーの利用が基本で、ほとんどカーナビで検索できません。

くわしいアクセス方法とガイドは
対馬観光物産協会までお問合せください。

TEL 0920-52-1566/FAX0920-52-1585

当協会HPの「ブログまとめ」→「対馬砲台群」をご参照ください。

<https://www.tsushima-net.org/>

かみざかほうるい
4 上見坂堡壘 砲台探索・初級編

上見坂園地・展望所



地元の皆さんからも愛される上見坂公園ですが、奥へ歩いていくと明治34年～35年（日露戦争前）にかけて構築された堡壘跡が残っています。昼間でも薄暗く、木立の間を鹿が走り、野鳥のさえずりなども楽しめます。

退避所

説明板では「砲兵詰所跡」になっていますが、実際は退避所だったようです。敵兵の上陸・白兵戦を想定した構造なんですね。



弾薬庫跡



砲座跡



砲座跡



退避所



門柱

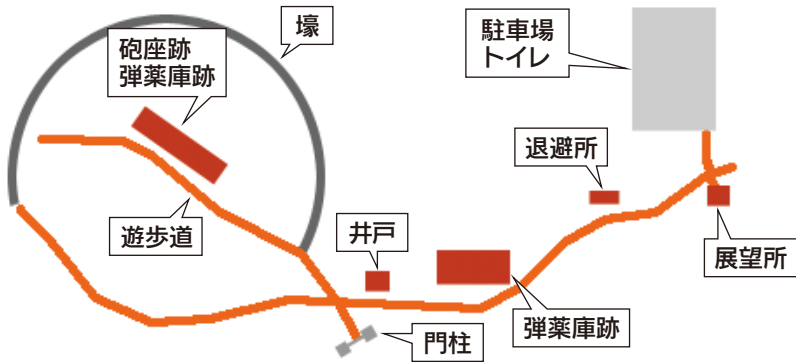


交通アクセス

- ◆ 対馬空港⇄上見坂園地 車で片道約20分
- ◆ 厳原港⇄上見坂園地 車で片道約15分

上見坂までの路線バスはありません。レンタカーかタクシーをご利用ください。展望所・駐車場(無料)・トイレ(身体障害者用)・公衆電話有り

上見坂堡壘見取図



周辺の見どころ紹介 (移動はレンタカー・タクシー)



住吉神社のロシアの機雷

ロシア艦からの戦利品として竹敷要港部より戦勝記念として贈呈されたもの。美津島町鶏知にある住吉神社境内にあります。



対馬要塞重砲兵連隊門柱

美津島町鶏知中学校に連隊正門の柱が残り、少し離れた場所に兵営裏門の片割れが残っています。



ロシア軍人の碑

日本海海戦百周年を記念し建立されたもので、住吉神社から徒歩10分、小高い山の上の公園内にあります。

ひめがみやま
5 姫神山砲台 砲台探索・中級編



第2期に建造された対馬要塞の中で最大規模かつ典型的な砲台で、万関の開削（明治34年）と同時に三浦湾を防備するために構築されました。28cm榴弾砲6門を配備。

注：砲台までの道は一部舗装されていますが、車でのアクセスは困難です。緒方地区から自然を満喫しながら歩きましょう！



砲座跡・弾薬庫跡

100年以上も前に建造されたとは思えない程、保存状態が良いです。雰囲気はまるで天空の城。夏にはコウモリがいることも。



右翼観測所



三点濾過式井戸



28cm榴弾砲砲座

姫神山砲台は、対馬観光物産協会の観光地整備事業により、砲台を覆っていた樹木の伐採や清掃などの整備が行われ、観測所・砲座・井戸等の構築物の状態が良くわかる状態になっています。

おりせばな 折瀬鼻砲台 砲台探索・上級編



姫神山からさらに2キロ悪路を進むと折瀬鼻砲台です。ガイド無しでは探索が難しく、悪路のため一人では行かないように!!



海はとてもきれいです。付近は漂着ゴミのため景観が悪く、また砲台施設は近年造られた防波堤の影響で崩れており残念です。灯台の横には第3期構築の野砲跡があります。

折瀬鼻砲台は、黒島と折瀬鼻の間に機雷を敷設し、敵艦を停止させ射撃する第2期（明治35年）の砲台で、12cmカノン砲2門を配備。灯台下には明治期の電灯所跡もあります。

また、太平洋戦争の時には折瀬鼻灯台横に野砲2門が配備されました。

じょうやま
6 城山砲台 (城山付属堡壘) 砲台探索・中級編



美津島町黒瀬にそびえる巨大な岩塊・城山(じょうやま)は、667年に古代山城が築かれ、日露戦争前の明治34年には城山砲台が構築されるなど、常に国防の最前線として重要な役割を果たしてきました。あまり知られていませんが軍施設跡から1キロ程歩くと城山付属堡壘があります。城山では、古代と近代の要塞めぐりを楽しむことができます。



付属堡壘へ



28cm 榴弾砲4門



右翼観測所



砲側弾薬庫



交通アクセス

- ◆ 対馬空港 ⇄ 登山口
車で片道約25分
- ◆ 厳原港 ⇄ 登山口
車で片道約30分

注：県道24号洲藻と箕形の間に金田城入口の看板があります。見落とさないように！
そこからさらに車で3分登山口に到着。乗用車3～5台の駐車スペース有。山頂までは徒歩片道約50分です。



大吉戸(おおきど)神社 金田城碑

昭和初期の対馬要塞司令官(瀧原三郎)が、「城山=金田城」とであると断言し、ここが対馬要塞の起源であると述べている点で貴重なものです。学術的に城山=金田城と断定され、国の特別史跡に指定されたのはおよそ50年後の昭和57年のことでした。



北白川宮能久親王お手植えの竹

城山山頂には、明治26年5月21日、城山巡視のさいに植えられた竹が石碑とともに残っています。北白川宮能久親王は、当時陸軍中将であり、世が世ならば明治天皇になっていたともいわれる人物です。万関橋トイレ横にも記念碑がありますが、万関が開削される前から軍事的に重要であることをみこして視察されたようです。



城山登山口前の広場は兵舎棟跡で、側溝・水路・井戸ほか明治のものと思われる石積みがきれいに残っていて、陸軍境界標石（通称“陸防”）があちこちに残っています。

陸軍境界標石(陸防)

軍事施設跡・要塞地帯などの軍用地の境界を示す石標で、現在、開発などで全国的に姿を消しています。



城山付属堡壘 砲台探索・中級編



城山登山道の軍施設跡の看板から1.2km軍道を進むと付属堡壘に着きます（要ガイド）。砲座は雑な造りですが、弾薬庫・井戸の保存状態は良く砲座からの眺めは絶景です。11月～3月は空気が澄み、また雑草の少ない時期で、オオワシ（冬に飛来）や韓国が見える機会も多くなります。明治34年構築。臼砲4門・野砲2門配備。



おさき 郷山 多功崎 榎岳
7 尾崎砲台群 (郷山・多功崎・榎岳) 砲台探索・中級編



郷山砲台

門柱

赤レンガ?



明治37年、尾崎地区に3つの砲台を起工、日露戦争後の39年に完成。第3期に構築された郷山砲台（現在は立入不可）を含め4つの砲台があります。

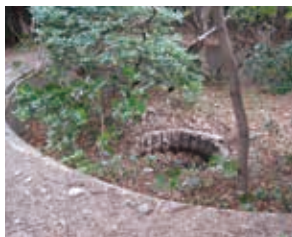
郷山砲台の石積みは、地域の災害復旧工事の採石により剥ぎ取られていますが、多功崎砲台はきれいに保存されています。榎岳砲台は弾薬庫・砲座などがやぶの中に残っています。3か所を探索すると約13キロの道のりで、かなりハード！

榎岳砲台

門柱 (左)、28cm 榴弾砲砲座(左下)

多功崎砲台

24cm カノン砲座(下)・弾薬庫(右下)





交通アクセス

- ◆ 対馬空港 ⇄ 尾崎
車で片道約35分
- ◆ 厳原港 ⇄ 尾崎
車で片道約45分
- ◆ 尾崎 ⇄ 砲台
徒歩片道約1時間

尾崎から三差路までは車で行けますが、悪路です。徒歩で行く事をお勧めします。トイレは尾崎地区内の公園ゲートボール場横にあります。

美津島町尾崎からの案内図



1 砲台方面入口



2 三差路・三壘成の碑



3 樫岳砲台



4 飛岳砲兵司令所



5 郷山砲台



6 多功崎砲台



① 対馬南無線方位信号所跡 郷山から徒歩15分、展望は良好



② 都々智神社 (遥拝所) (美津島町尾崎)

28cm榴弾砲の砲弾が奉納されています。対馬の神社ではよく見られる光景です。砲弾の重さは約217kg、飛距離は約7800mです。

③ 飛岳司令所

三差路から南に徒歩約15分、飛岳頂上に司令所があります。

④ 成兵精鋭三壘成の碑

日露戦争終結後の明治39年9月に建立。工事に携わった人の名前が刻まれており、この砲台を造ったのだ!という証拠を残したかったのでしょう。



8 その他の砲台① (芋崎・大平・大石浦・温江)

いもざき

おおひら

おおしうら

ぬくえ

1 芋崎 (いもざき) 砲台【美津島町昼ヶ浦】 要ガイド



交通アクセス

◆対馬空港⇄芋崎入口
車で片道約25分

◆厳原港⇄芋崎入口
車で片道約30分

カーナビでのアクセスは困難です。昼ヶ浦地区へ行く途中の道路沿いに芋崎入口の看板があります。さらに昼ヶ浦方面に行くと道路脇に大平低砲台がありますが、道路工事で破壊されています。

美津島町鶏知からの案内図



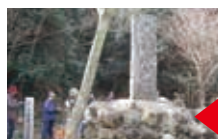
1 軍道入口



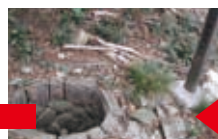
2 砲台入口案内板



3 三点濾過式井戸



7 魯寇之碑



6 ロシアの井戸



5 観測所跡



4 半地下掩蔽棲息部



芋崎砲台の特徴

日清戦争前の明治20年4月～21年10月に築造され、さらに明治30～33年に改築されたため、第1期（石造り）と2期（レンガ造り）の技術が混交している全国的にも珍しい砲台です。28cm榴弾砲4門配備。棲息掩蔽部は半地下になっており保存状態は良好。

「対馬の山を歩いていると（中略）弾薬庫、兵舎等は終戦後隣の国から日本へ密航する人々の格好の隠れ場であった。」（日野義彦著「対馬拾遺」）の記述を裏付けるものとして、棲息掩蔽部の中にオンドル（韓国土床暖房）の跡が残されています。



半地下式棲息掩蔽部

訪れる人が少ないため掩蔽部の中はコウモリの棲みかとなっていますが保存状態は良好。

28cm榴弾砲砲座

他の砲座と違い円形部はレンガで造られています。当時のレトロなガラス瓶がいくつも転がっていました。

ロシアの井戸・魯寇之碑

砲台から徒歩10分（悪路）。1861年対馬事件の地です。芋崎浦の浜辺に船のドック跡が残っています。さらに灯台方面に軍道を進むとレンガ造りの電灯所・ロシアが造った台場跡があります。



2 大平 (おおひら) 低砲台 【美津島町昼ヶ浦】

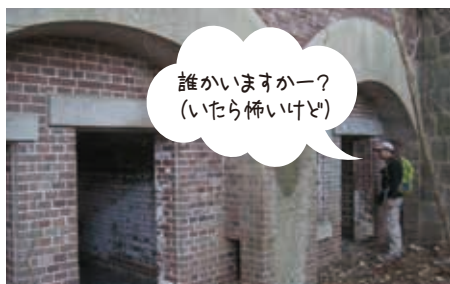


第1期に構築された4砲台の責任者は工兵中尉・時尾善三郎氏。100年以上経った今もはっきりと名前が残っています。どんな人物だったのでしょうか。

砲台へのアクセスはよいのですが、弾薬庫は物置となって保冷箱や漁網などが詰め込まれ、砲座跡はやぶで覆われ、道路工事による損傷も激しく、残念な感じです…。



3 大平高砲台 【美津島町昼ヶ浦】 要ガイド



大平低砲台の第2弾薬庫横をよじ登ると軍道に出ます。竹やぶの中の軍道を少し歩くとすぐ棲息掩蔽部に着きます。第2期に構築されたもので、建物はしっかりして保存状態も良く、近くに三点濾過式の井戸や半地下式掩蔽部が残っていますが、砲座跡は造りが雑で竹やぶの中に確認できる程度です。カノン砲4門は、第1期の温江砲台から移設したもので、調べてみると重砲類はリサイクルされていたようです。山頂からの景色は絶景で疲れも吹き飛びますよ!!

4 大石浦 (おおいしうら) 砲台 【豊玉町深里】 要ガイド



第1期に構築された総石造りの砲台ですが110年という年月が過ぎたとは思えない堅固さです。軍道は比較的歩きやすく、石を切り出した場所も残っています。第1～3号までの弾薬庫と28cm榴弾砲6門ほか、井戸・兵舎跡など、1期の中ではかなり大きな施設です。大石浦の浜へ降りると当時の船着き場跡も残っていてここから物資を搬入したことがわかります。



5 温江 (ぬくえ) 砲台 【豊玉町貝鮒】 要ガイド



貝鮒地区の奥にお寺があり、そこが温江砲台の入り口になります。山道を歩くと陸防が両側にあり、軍道だということがすぐに分かります。約40分歩くと、第1・2号弾薬庫と12cmカノン砲4門の砲座に到着。観測所は確認できず、第1弾薬庫前の井戸は枯葉に埋まっているので要注意です。訪れる人はほとんどいない山中に堅固な石造りの構築物がひっそりとたたずんでいる様子になにか物悲しさを感じます。



石ばかりでレンガを使ってないゆえ

井戸が沼状に！キケン！



温江砲台までの軍道脇には陸防がいっぱい。陸防の宝箱や！！

9 その他の砲台② (四十八谷・大山・大崎山他)

しじゅうやたに

おやま

おおさきやま

1 四十八谷 (しじゅうやたに) 砲台【美津島町島山】要カヤック・ガイド



対馬空港・厳原港より車で美津島町竹敷まで行き、シーカヤックでおよそ2km漕ぎ、集浦へ上陸し、あとは軍道を徒歩約10分で弾薬庫・砲座跡 (28cm榴弾砲6門) に到着。(陸からのアクセスは困難)

さらに急傾斜の軍道を100m程登ると右翼観測所と掩蔽部に出ます。そこから南へ10分程行くと左翼観測所と掩蔽部。構築物・軍道の状態は良好です。

瀬渡し船などの利用も可能ですが、単独では砲台や観測所までたどり着けない可能性が高いため、ガイドつきシーカヤックツアーへの参加をお勧めします。おもに、雑草が繁茂しない秋・冬のオプションツアーになりますので、くわしくは下記にお問い合わせください。



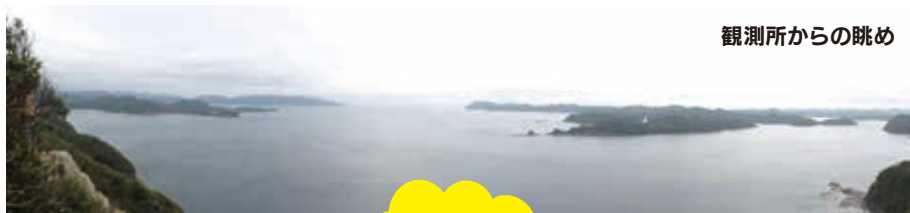
.....
(有)対馬エコツアー

0920-54-3595

対馬カヤックス

090-4981-5064





撃てー!!



海軍水雷衛所



島山は、1994年に浅茅パールブリッジにより対馬本島と結ばれるまで、浅茅湾に浮かぶ大きな「島」でした。四十八谷砲台は、島山の西部にハンマー状に突き出した半島にあり、対馬の数多い砲台のなかでも踏査が困難な部類ですが、浅茅湾中央に位置する軍事上の最重要拠点でもあります。特に海軍水雷衛所は全国でも函館と対馬にだけ残る貴重な構築物で、当時の丸窓木枠が残っていたのにはびっくりしました。

2 大山 (おやま) 砲台 【美津島町大山】 要ガイド



「対馬の旧軍砲台略記」には、大山砲台（明治36年築造）と、砲台長・中尉・武安宿典の名が記されています。大山には6門の砲座跡と塹壕等が残っているにも関わらず、陸軍築城本部の作成した「現代本邦築城史」には記載がありません。現実に存在するのに、軍の予算上存在しない「幻の砲台」なのです。港・空港から路線バスを利用して行くことのできる唯一の砲台で、バス停のすぐ前に登山口があり頂上までは約40分です。バスの時刻は対馬交通（0920-52-1810）にお問合せください。

3 棹崎 (さおざき) 砲台 【上県町佐護 (さご)】



昭和期に建設された棹崎砲台は、棹崎公園として整備され、1997年には対馬野生生物保護センターが開館しました。砲座跡はきれいに整備されています。日本最西北端の碑もあり、みなさんの憩いの場となっています。

45式15cm カノン×24

起工:昭和11年7月 竣工:昭和13年3月

4 豆酸崎 (つづざき) 砲台 【巖原町豆酸】



巖原港から車で約40分。内山トンネルを抜け豆酸崎へ。日頃は観光地として多くの方が訪れますが、灯台の下に砲台がある事を知る人は少ないです。この灯台は昭和62年、観測所跡に建てられたものです。

第3期(昭和14年)に構築。西泊砲台と同形の観測所がありました。



豆酸崎(地元では尾崎山と呼ばれている)の遊歩道を歩くと鉄製の扉がついた弾薬庫やサーチライトを照らす時の目印だったと思われる左右の照明界標石が残っており、注意して歩くと発見できます。

戦後、GHQが駐留していたため、鉄が高騰した時期にも鉄部品が盗まれずに残っています。



5 豊(とよ)砲台【上対馬町豊】



大正時代のワシントン海軍軍縮条約により不要となった巡洋戦艦「赤城」の45口径砲塔40.6cmカノン2門を移設する形で昭和9年に完成したもので、当時は世界最大の巨砲でした。豊砲台は結局、実戦では一度も発射することがなく、「撃たずの砲台」と揶揄(やゆ)されることもあります。第2次大戦時に日本海側の都市に艦砲射撃による被害がなかったのは、対馬要塞の強力な火砲による威圧の効果が大きかったためです。

45口径40cm カノン×2

起工：昭和4年5月 竣工：昭和9年3月

砲台入口まで車で行くことができ、入口のボタンを押すと30分間照明が点灯するため、安心して見学できます。

豊砲台観光

厳原港・空港から上対馬町比田勝(ひたかつ)まではバスで2時間半。比田勝からは、タクシー観光をご利用ください。

6 大崎山(おおさきやま)砲台【厳原町尾浦(おうら)】要ガイド

厳原港から南へ進み、久田隧道(トンネル)の南側出口から左折し、大崎山砲台へ。軽乗用車で砲台入口まで10分、さらに徒歩20分で砲座跡へ。

昭和10年に造られた橋や兵舎跡・トイレ等の建物が残っています。施設はコンクリート製で戦後GHQにより破壊されたため崩壊が著しいです。神聖喜劇(大西巨人著)の舞台のひとつです。



10 その他の日露戦争関連地



■ 万歳峠（上対馬町豊～泉間）

日本海海戦では、日本の海軍連合艦隊と、ロシアのバルチック艦隊が対馬沖で激戦を繰り広げますが、対馬北部の住民は、それぞれ山に登って観戦していました。日本が勝ち、島民が「万歳！」をした場所が「万歳峠」。古い記念碑があるという情報を得て、「峠入口」の石碑から山に登りましたが、さんざん迷った挙句、偶然、記念碑を発見！！正しい登山口は入口の碑がある場所よりさらに100m先ですのでご注意ください。

■ ナヒモフの大砲（上対馬町茂木浜）

1905年、対馬沖に沈んだナヒモフ号の将兵約100名が茂木浜に上陸し、琴（きん）の村は大騒ぎになりますが、結局は物心両面からもてなしました。大砲は1980年に引き上げられました。



■ 生きる力の泉（上対馬町殿崎）

海岸に漂着したたくさんのロシアの敗残兵が、水を飲みたいと身振りをしてため、島民が案内してその命を救ったという話が伝えられています。

■ 深浦水雷艇隊基地跡（美津島町竹敷）

2011年11月18日（金）、対馬市美津島町竹敷の「深浦水雷艇隊基地跡」が、公益社団法人「土木学会」の「土木学会選奨土木遺産」に認定されました。長崎県下ではほかに、長崎市の「出島橋」「本河内高部堰堤」「小ヶ倉（水道）堰堤」、佐世保市の「山の田浄水場群」の計5ヶ所が認定されています。石で造られたドック跡は100年以上経った今もそのままの形で残っています。





■ 日露友好の丘 (上対馬町殿崎)

上対馬町殿崎の巨大レリーフです。日本海海戦100周年の2005年に設置されました。日本海海戦で負傷して捕虜となったバルチック艦隊司令長官・ロジェストウェンスキーを見舞う連合艦隊司令長官・東郷平八郎が描かれています。

■ 「恩海義嶠 (めぐみのうみ ぎはたかし)」

日本海海戦の勝利を大喜びした島民ですが、負傷して流れついたロシア兵を手厚く看護し、200人以上も救助しています。殿崎の記念碑は、その話を聞いて感銘を受けた東郷平八郎が、島民の心をたたえて揮毫したもの。日露慰霊の碑には戦争で命を犠牲にした多くのロシア兵の名前が刻まれています。この世界から戦争がなくなり平和が訪れることを祈りたいですね。



■ 要塞地帯標

明治32年に制定された要塞地帯法により、要塞地帯の区域を表示するために設置された標識です。当時一般人は勝手に入ることができず、様々な禁止・罰則がありました。砲台探索をしていると偶然発見することもあります。

コラム | 対馬とロシアの因縁の物語

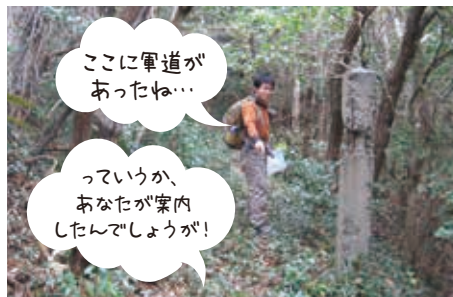
幕末の1861年、ロシアの軍艦ボサドニック号が浅茅湾の芋崎を半年間にわたって不法占拠し、島民2人が犠牲になるという事件が発生しました。当然、対馬では攘夷(外国人を追い払う風潮)の嵐が吹き荒れ、暴走しそうになる武士たちを、藩の幹部たちは必死で抑えたそうです。

時は流れて明治。伊藤博文や山県有朋などの政府の重鎮たちは、対馬を視察してすぐにその軍事的重要性に気づき、対馬要塞の建造に取り掛かります。首都・東京を守るための東京湾要塞に次ぐ2番目の工事でした。

さらに時は流れ、1905年5月、運命の日本海海戦が対馬沖で勃発します。海岸に上陸したロシアの敗残兵を、島民たちは過去のできごとを忘れ、必死に看病しました。侵略と島民の犠牲という形で始まった対馬とロシアの因縁は、こうした形で幕を閉じたのです。

11 (番外編) 死ぬかと思った砲台!

1 竹崎砲台【美津島町鴨居瀬(かもいせ)】悪路・要ガイド



道なき道をイノシシのように徘徊し、やっとのことで砲台入口を発見! (本当に運良く偶然に…)。さらに30分徘徊し、船着き場を発見。来た道をもどり、やっと砲台跡を見つけ写真を撮るも、振り返るとただのやぶ…。帰りは砲台入口から軍道を見つけ30分であっさりとの車へ到着。こんな具合で海はとても美しかったのですが、ガイドを頼まれても二度と行きたくないと思った程、大変な探索でした。一般の方にはとてもお勧めできません。第3期(昭和13年)構築、15cmカノン砲配備。

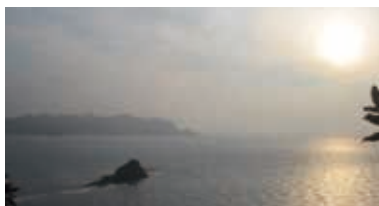


水尺: 観測所から敵艦の位置を測定するために用いた

2 小松崎砲台【豊玉町廻(まわり)】悪路・要ガイド

車で豊玉町廻まで行き、そこから道なき道の急傾斜を登ること20分。観測所・砲座4門・防空壕等の施設が残っていました。対岸には砲台が4つもある尾崎半島があり、夕日に牛島が映える景色は絶景ですが、ガイド無しではたどり着くことは困難。イノシシとの遭遇もありスリル満点! 決して一人では行かないください。最後の1つの砲座がなかなか見つからず、砲台部員S(私)がマニア顔負けの嗅覚を発揮し、発見することができました。

第3期(昭和20年)構築、38式野砲4門配備。



3 西泊 (にしどまり) 砲台【上対馬町富ヶ浦】 悪路・要ガイド



観測所と内部の様子。右上は観測所からの眺め。さすがに絶景！棹崎公園に同型の観測所があり、見学はそちらをお勧めします。

ガイド無しでは到底たどり着けない尉殿崎(じょうどさき)の山中にあります。散々山中を徘徊したあげく、小松部長(親分)に電話すると、「オレもよう覚えとらんとよ。なんかロープを登ったんやけど…」「あっ！そこにロープが！」嘘のようなホントの話。軍道はほぼ崩れかかり、危険箇所も多く、気軽に行ける砲台ではありません。第3期(昭和13年)構築。

対馬要塞(砲台群)の今後(まとめっぽく)

戦時体制最後の総理大臣は、若き日に竹敷(対馬市美津島町)で水雷艇・駆逐艦を指揮して日清・日露戦争を戦った鈴木貫太郎でした。

戦後、要塞法による制約が解かれ、対馬要塞を守る人もいなくなり、一部は鉄を取るために破壊され、一部は石材を剥がれ、一部は公園化されました。高台にある砲台は絶好の遠足地でしたが、樹木に覆われて展望が利かなくなると訪問する人も減り、次第にその存在を忘れられていきました。かつて、莫大な予算と高度な技術で建設された対馬要塞は「戦争の負の遺産」として見られ、特に保護されることもなく現在に至っていますが、一部の有志により看板が設置され、書籍が発行されるなどの地道な活動が続いています。そのおかげで、今回の調査も十分な情報があり、山中を迷いながらも立入禁止を除く25カ所の砲台を無事、調査・確認することができました。

平成の砲台専門家こと小松津代志氏の情熱により、対馬砲台群は観光地として再注目されることになり、小松氏の意志を継ぐがごとく地道に情報発信を行う部員N。

対馬の歴史は、日本の外交の歴史そのものです。対馬砲台群は、幕末に欧米列強の強大な圧力を受けた小国・日本がいかにして中央集権国家を築き、アジアや欧米の国々とのようにかかわってきたかという100年を超える歴史物語を、森の奥でひっそりと現代に伝えているのです。今後、このガイドブックがより多くの方の目に触れ、対馬という国境の島に関心を抱いていただき、この地を訪れてくだされば嬉しく思います。

おまけ こんな思いしました瞬間ショット!!

高所恐怖症の私にこんなところに立てて…。鬼だ!

本当にこの道でいいのー?!
おーい!!

落ちる!

フヒー!

滑る!

いい年した大人

誰にも会いませんように!マジでカッコわる〜!!

転がる!

砲台部員のNは、私がどんなに転ぼうが滑ろうが落ちようが、一切「大丈夫ですか?」と心配することなく、大笑いしながらシャッターを切り、協会のブログに載せます。なんちゅうヤツだ!!おまけに「すぐキこだから」と往復6kmも歩かせ、道が分からなくなると急に焦りだし、おらぬ方向へ行こうとする。結局私がいなきや砲台も見つけられなかったというNと、キズだらけになりながらも無事(?)に砲台調査を終えました。

MISSION COMPLETE!!

情報不足のまま砲台探索をするとこんなことになります…

四十八谷にて

もう2度と来ないぞ!
ちくしょー!!

なんで"私が"こんな
目に・・・(T_T)

斜面をころがり
落ちて泥まみれの人

泥まみれの靴を
海水で洗う人

砲台ガイドとお問い合わせは
(一社)対馬観光物産協会

〒817-0021

長崎県対馬市巖原町今屋敷672番地1

TEL 0920-52-1566/FAX 0920-52-1585

<https://www.tsushima-net.org/>

2023.3 増刷 (企画制作 エース印刷株式会社)

